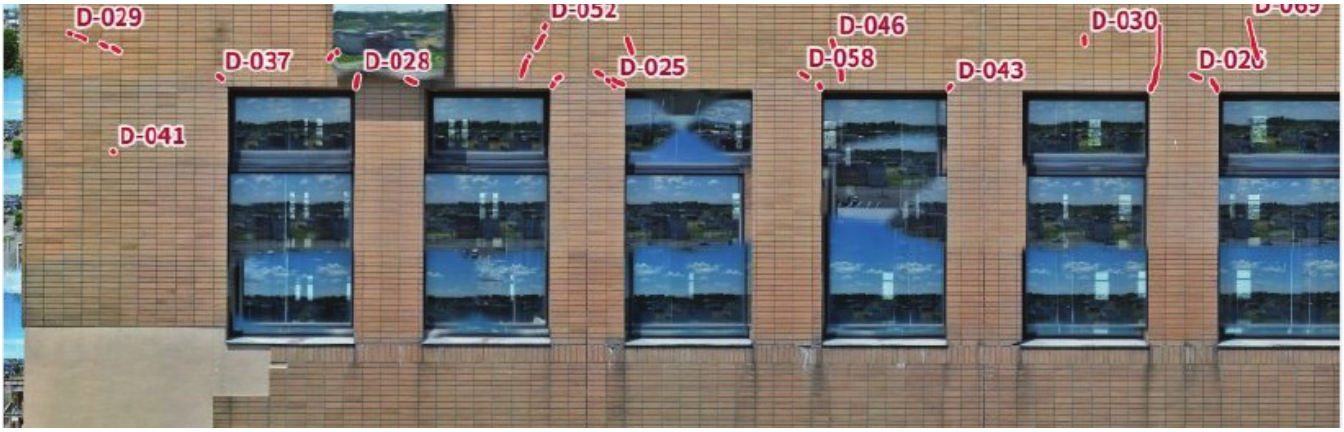
外壁診断を、現場で使えるデータへ。

赤外線 × 可視 × AI 支援 × 報告書

ドローン撮影から外壁図・異常位置・証拠画像・報告書まで、ひとつの流れで管理します。

AI は候補を示し、最終判断は人が行う設計。診断確定した異常だけを報告書・補修数量の対象にします。



Facade Map 上に D 番号と確定ひび割れ位置を表示。全体像と詳細証拠をつなげて確認できます。

現場・診断の情報を一元管理

POINT 1

建物、点検回、外壁面、撮影画像、 AI 候補、人の確認結果、報告書を同じデータ構造で扱います。

AI 候補と正式診断を分離

POINT 2

AI 候補は支援情報。 Defect として人が診断確定したものだけを確定異常として扱います。

可視・赤外画像を証拠として保存

POINT 3

D 番号ごとに可視画像と赤外画像を紐付け、報告書では根拠画像として確認できます。

報告書・補修数量へ拡張

POINT 4

外壁面ごとの件数、総合所見、将来的な不具合面積・補修数量の算出まで拡張できます。

こんな課題に

- 撮影画像と診断結果の対応が分かりにくい
- 報告書作成に時間がかかる
- AI 候補と確定異常が混ざりやすい
- 補修工事へつながる数量整理まで行いたい

※AI の出力は診断候補であり、最終診断は人が行います。掲載画面・機能には開発中の内容を含みます。

特徴：診断フローをつなげる

撮影・ AI 候補・人の確定・証拠化

「撮った画像」から「報告に使える診断データ」へ。現場作業と報告書作成の間にある手戻りを減らします。

1 撮影
ドローンで可視・赤外を取得

2 AI 候補
ひび割れ等の候補を抽出

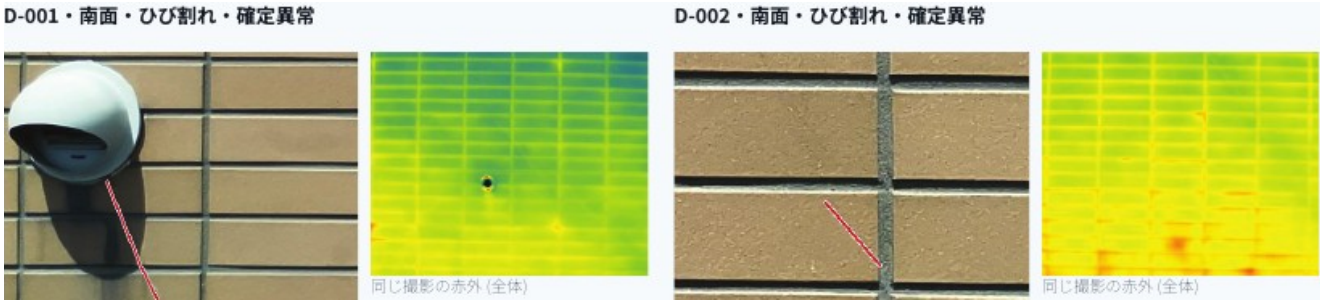
3 人が確認
レビュー完了と診断確定を分離

4 外壁図
D 番号と位置を Facade Map へ

5 報告
証拠画像と数量へ展開

可視画像・赤外画像・ D 番号をセットで確認

各異常に対して「どの画像のどこを根拠にしたか」を残します。報告書では証拠画像として自動配置できます。



主な機能

建物・点検回管理
建物、点検回、外壁面、撮影画像を紐付けて管理

Facade Map
外壁面ごとに D 番号・位置・形状を一覧化

AI 候補レビュー
候補抽出、レビュー完了、診断確定を明確に分離

報告書自動生成
総合所見、外壁面別件数、証拠画像、注意事項を出力

調査計画・飛行書類
飛行許可、緊急連絡、地図、事前確認を管理

補修数量設計中
ひび割れ延長、不具合面積、補修想定数量へ拡張

設計方針
AI は候補、最終診断は人。正式な異常・数量・報告書には、診断確定された Defect だけを使います。

※AI の出力は診断候補であり、最終診断は人が行います。掲載画面・機能には開発中の内容を含みます。

活用：報告書から補修計画へ

診断結果を「見る」だけで終わらせず、発注者説明・補修計画・数量拾いにつながる資料化を目指しています。

報告書で出せる内容

- 総合所見の自動下書き
- 外壁面ごとの件数サマリー
- Facade Map と D 番号
- 確定異常一覧
- 可視画像・赤外画像の証拠
- AI 候補と人の確認結果

補修工事向けに開発中

- 外壁面積・開口部面積
- 正味外壁面積
- ひび割れ総延長
- 面状不具合面積
- 補修想定数量
- 数量 × 工法 × 単価の見積連携

外壁面別サマリーのイメージ

外壁面	診断状態	確定異常	ひび割れ	補修数量
南面	評価済	70 件	59 件 + 形状未確定 11 件	延長・面積を算出
西面	評価済	0 件	0 件	0
東面	評価不能	-	-	対象外 / 再撮影

※正式数量にはスケール検証済み・人が確定した Defect のみを含めます。参考値は別表示します。

テスター企業・共同検証先を募集しています

対象：外壁診断会社、改修工事会社、施設管理者、自治体・公共施設、建築関連企業

検証内容：撮影データの整理、 AI 候補の確認、 Facade Map 、報告書、補修数量の使い勝手確認

お問い合わせ： tokunaga@tokulaboratory.co.jp

実データを使った現場検証・報告書サンプル作成・補修数量設計の相談も可能です。

今後の拡張：赤外線候補から浮き・剥離の多角形 Defect へ、面積算出・補修数量・概算見積まで連携

※AI の出力は診断候補であり、最終診断は人が行います。掲載画面・機能には開発中の内容を含みます。